

【熊本県教育委員会賞】

「オトトケサボウ」を読んで

宇土市立走潟小学校 2年 工士 涼平

ぼくは家ぞくが大好きです。やさしいお母さんとお父さん、元気でかわいい弟と妹とくらす毎日が楽しいからです。

「オトトケサボウ」はそんな家族がテーマのお話です。ぼくは、このお話を読んで、家族に食べ物やべんきょう道具をもらったら、かんしゃしなければいけないということに気づきました。「オトトケサボウ」にとうじょうする兄さんも弟のケサボウにたいするかんしゃの気もちをもっていれば、ケサボウが家出をすることはなかったと思います。

このお話では、ケサボウのやさしさ、思いやりに気づいた兄さんほととぎすが家出をした弟のケサボウをさがしに出かけます。お話はその場面でおわっていますが、ぼくはつづきをそぞうしてみました。きっと兄弟はもう一ど会えると思います。そしてケサボウに会った兄さんほととぎすは、

「おこってごめんね。ぼくのために、えさをさがしてくれてありがとう。これからは、兄さんもいっしょにさがすからね。」
と、伝えると思います。

ぼくは、自分の生活をふりかえってみました。家ぞくが料理を作ってくれた時は「いただきます。」と言っています。べんきょう道具をくれたときは「ありがとうございます。」と言っています。でも、もっとかんしゃの気もちを伝えたいし、自分も家ぞくの一人として、はたらきたいという気もちが出てきました。

ぼくも大すきな家族の一いんになれるように、「家ぞくからかんしゃされるようなことをたくさんしてみたいなあ。」と考えました。たとえば、さらあらいやゴミ出し、野さいの水やりや新聞はこびなどです。これをしてると家族がよろこびます。家ぞくがよろこんでくれると、ぼくもうれしくてあたたかい気もちになります。「オトトケサボウ」を読んで、家族の大切さを考えるいい時間ができました。